



令和7年12月2日(火) 名古屋市理科教育研究会 事務局 広報係

驚きと発見の連続「青少年のための科学の祭典」

10月4日(土)、5日(日)、名古屋市科学館で「青少年のための科学の祭典」が開催されました。子どもたちは目を輝かせながら、科学の魅力を体験できる実験や工作など、身近な科学の不思議に挑戦しました。

今年度も、私たち名理会の各専門部(物理・化学・生物・地学)から趣向を凝らしたブースが展開されました。親子で楽しめる内容に参加者からは笑顔があふれ、名理会のブースも含め大盛り上りの科学の祭典となりました。



物理専門部「傘袋ロケットをつくろう」

物理専門部は、「傘袋ロケットをつくろう」というテーマでブースを開きました。子どもたちが思い思いに色づけをした傘袋に空気を入れ、指で押し込むことでロケットのように傘袋を飛ばす、という体験内容でした。



化学専門部「身近なものでハンカチを染めよう」

化学専門部は「身近なものでハンカチを染めよう」というテーマでブースを開きました。ハンカチを輪ゴムで絞り、タマネギの皮を煮出した煮汁で染め、ミョウバン水(媒染液)に入れ色素を定着させる、という体験内容でした。



地学専門部「化石のレプリカ作り」

地学専門部は、「化石のレプリカ作り」というテーマでブースを開きました。様々な色のプラスチック粘土をお湯で温めて柔らかくし、アンモナイトや三葉虫などの型に当てることで化石のレプリカを作るといった内容でした。

生物専門部「種の模型を飛ばそう」

生物専門部は、「種の模型を飛ばそう」というテーマでブースを開きました。植物の種子が風を利用して、回転したり、滑空したりしながら遠くへ広がる仕組みを紙の模型を作って体験するという内容でした。



第 58 回全国小学校理科研究協議会研究大会 愛知大会 閉幕

○ 大会主題

「グローバル社会を生き抜く心豊かな人間を育てる理科教育」

○ 研究主題

「問題解決の道筋を構想し、自然の事物・現象をより深く理解する子どもの育成」
—理科を学ぶ幸福感を味わう、主体的で子ども中心の学びを通して—

○ 会場

11 月 20 日(木) 岡谷鋼機名古屋公会堂

11 月 21 日(金) 名古屋市立なごや小学校 名古屋市立瑞穂小学校 名古屋市立船方小学校

令和7年11月20日(木)、21日(金)の両日にわたり開催された「第 58 回全国小学校理科研究協議会研究大会 愛知大会」は、盛況のうちに閉幕しました。

大会は、理科教育の意義や価値を改めて見つめ直す機会として、特に以下の2点に焦点が当てられました。1点目は「主体的で子ども中心の学び」、2点目は「理科を学ぶ幸福感」です。これら2点は相互に関わり合い、幸福感を取り入れることで、より子ども中心の学びを構想でき、未来に生きる力を育む学びができると考え、その理念の基に授業等を練り上げていきました。



名古屋市立なごや小学校・瑞穂小学校・船方小学校では、公開授業と授業検討会が行われました。公開授業では、子どもたちが自ら課題を見つけ、進んで実験に取り組み、仲間と協力しながら考えを深める姿が見られました。



また、ICT を効果的に活用し、円滑に授業を進める教師の工夫も随所に見られ、参加した先生方からは「主体的な学びと理科を楽しむ子どもたちの姿に感銘を受けた」との声が聞かれました。公開授業後の授業検討会では、授業だけではなく、受けた児童、指導した教師にも、または検討会に参加した人たちにとってもウェルビーイングとなる意見や感想を求めたことで、とても温かい意見交流会となりました。

このように、本大会は愛知・名古屋から、理科教育の未来を切り拓く意義深い大会となりました。これまで、本大会の準備に携わってこられた多くの方々やご支援いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

